

## 平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視 点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（3月20日実施）	成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①専門性を追究した教育活動を充実させる。②商業と工業の連携による特色ある教育種を実施する。③学力及び技術技能の基礎力を確実に定着させる。④学習指導方法の改善を推進する。	①専門性に対する目的を持った意欲的な学習活動を推進する。②商業と工業の連携による学科を超えた教育活動を充実させる。③④授業改善のテーマに「55分を効果的に活用した授業展開の研究」を上げ、主体的・対話的で深い学びの授業を実践する。	①資格取得や有用な各種検定への合格対策構築を定期的に実施する。②「総合的学習の時間」および「課題研究」で学科を超えた教育活動を充実させる。③④教科会で「55分を効果的に活用するための授業展開」について検討し、具体的な取組を実施する。また、研究授業において、テーマを踏まえた取組の成果を発表する。	①資格取得や各種検定の合格者が増加したか。②商業と工業の学科を超えた連携事業を充実することができたか。③④教科全体として、共通な取組を行うことができたか。また、テーマを取り入れた研究授業ができたか。	①1年は1クラス30人のクラス編成よりきめ細やかな学習を行った。①アンケート結果で資格・検定の受験や協議会等の参加等学習活動を充実させることができた82%の生徒が回答。①県立五商スピーチコンテストのレシテーションで第3位、外国人「おもてなしアイデア」コンテストで入賞の成果を収めた。ホテルのオリジナル宿泊プランを考案、楽トラベル内で販売し好評を得た。この取り組みを発表し全国準優勝の成果を得た。①珠算電卓検定は合格者が81名から104名ビジネス文書検定は合格者が72名から87名と昨年より増加、専門のスキルが身に付くとともに学習の動機付けにもなった。①危険物取扱者（乙1～6類）全類取得を目指すよう指導、乙1は3名乙2は3名乙3は2名乙4は8名乙5は3名乙6は2名の生徒が取得。①化学系の資格取得を目指し、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者は4名有機溶剤作業主任者は3名の生徒が取得。①ものづくりコンテストの参加を通し専門技術の大切さとものづくりの楽しさが変わりその結果県で6位になった。①情報技術検定の資格取得を目指し補習を行い結果3級は72名2級は1名の合格者が出た。①実用英語検定は3級2名準2級1名高校卒業程度の力が必要とされる2級の合格者が2名出た。①数学検定の受験者が昨年の5名から今年は10名に増加。①漢字検定の受験者が昨年の29名から63名（第二回）70名（第三回）に増加。②課題研究の授業で総合技術科がオリジナルライトを開発製作しその仕様書やパッケージを総合ビジネス科が製作する取り組みを実施。③④55分授業を効果的に活用するための授業展開について各教科で検討し、55分授業を一定期間取り入れその反省をもとに、研究授業の指導案を検討した。	①資格取得や各種検定受験、各種協議会等への参加が増加しており、一定の成果が出ていると思われるが、20%あまりの生徒が学習活動を充実させられなかったとらえている。やる気を起こさせ意欲的な学習活動ができるよう指導していく。①補習や課題等で検定不合格者への対応を行い成果が出ているので、引き続き学習環境の充実を目指していく。②課題研究等で学科を超えた教育種の新たな取り組みを検討する。③④55分を効果的に活用するための授業展開を、引き続き検討する。教科内で情報を共有して、授業を話し、主体的・対話的で深い学びの授業の実現を目指す。	（保護者） ①保護者対象のアンケートでは資格取得・各種検定の受験・各種協議会等へ積極的に参加し学習活動を充実させることができた、82%の保護者が回答。②商業と工業の連携による学科を超えた教育内容を充実させ各学年の状況に応じた進路ガイダンス、説明会、外部講師や卒業生による進路講演会などを実施したことに関して72%の保護者が十分またはほぼ十分であると回答。 （学校評議員） ①丁寧な授業をしていて生徒の意欲を引き出そうと努力していることがうかがえる。①資格等生徒が取り組ませ達成感を感じさせるという取組を継続してほしい。②オリジナルライトの製作は、ものができる過程を知る良い機会になっていると思う。①高校の学習は専門性が必要なのでさらに授業等工夫が必要だと思う。①課題研究発表会で人権のこというかという文言があったが、そういったところもよりよいものにしてほしい。	①授業展開の工夫や補習等の実施により資格や各種検定取得意欲的に取り組む生徒が増加、また学習に充実感を得られていない生徒の意欲を奮起させ合格に繋げることが課題。②課題研究等で学科を超えた教育活動の新たな取り組みを検討し、③④55分を効果的に活用するための授業展開を引き続き検討し、教科内で情報を共有して授業に活かせるようなシステムを考案することが課題。	①平成30年度からより専門性を追究したカリキュラムが開始されるのでそれにあった取組をさらに考案する。①資格や検定取得の有用性を認識させる指導や、補習の実施等の取組により合格者の増加を図る。②外部団体との連携を強め生徒の活躍の場を広げることを検討する。③④生徒が自ら学ぶ姿勢を育てる効果的なアプローチを模索する。
2 生徒指導・支援	①社会人基礎力と豊かな人間性を育む。②主体性を育み自立した人間の育成を図る。③教育相談体制の充実を図る。④学校行事や特別活動及び部活動の活性化を図る。	①生徒個々の日常的行動や動向を注視し、生徒とのふれあひを通して基本的な生活習慣や規律、マナーを身につけさせる。②校内外の巡回指導など、地域と連携しながら、生徒のマナーの向上を図る。③スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の充実を努める。④学校行事や生徒会活動、部活動について、グラウンド改修への対応を計画的に行う。④生徒主体の学校行事を実施するとともに、部活動加入率を上げ各部の活動の活性化を図る。	①基本的な生活習慣や規律、マナーが定着するために、保護者や関係部署と連携・協力し、声かけ等の指導を積極的に行う。②遅刻をなくするために、保護者と連携した生活習慣全般の改善を指導する。③カウンセラーの来校日について広報しカウセリング室をより活用しやすい雰囲気づくりを行う。③生徒の心の悩みをいち早く認識できるよう努め、解決に向けて、職員、保護者、カウンセラーと情報交換を密に行い、教育センター等の連携した取組を行う。④グラウンド改修を想定した学校行事を立案する。④部活動加入率を上げるべく、各部の活動を広報する等の方策を立案し、実施する。	①生徒の生活習慣の定着のための組織的な指導ができたか。また、挨拶をする生徒が増加したか。②遅刻防止指導を年5回以上実施し、遅刻の回数が減少したか。③毎学期のカウセリング日程等の広報が行えたか。③生徒の抱える問題や情報を把握し、支援体制が有効に機能したか。④グラウンド改修に対応した学校行事の計画・実施できたか。④積極的に学校行事に参加する生徒が増えたか。④前年度より部活動加入率が上がったか。また、活性化した部活動が増えたか。	①基本的な生活習慣や規律マナーが定着するよう毎朝職員が正門に立ち登校時の声かけを組織的に実施し全校集会でも周知徹底した。②年間5回学年と生徒指導グループが協力し遅刻指導を実施、生徒の遅刻回数も減少している。また生徒の状況に応じ保護者と連携し遅刻指導をしている。②校内の巡回指導をしているが自転車の乗り方等についての苦情が寄せられた。②年に2回行っている自転車指導団では、事故防止の観点からヘルム・ブレーキ・カギ・自転車登録の確認や登下校における事故防止を全職員で指導。③年3回いじめアンケートを実施し早期発見・未然防止に努めた。③1年生を対象に携帯電話教室や人権研修を行い生徒の規範意識を高めた。③カウセリング日程等も広報を行い相談を受ける生徒が増加、活用しやすくなった。③ケース会議や生徒情報交換会が定着、授業担当者間での情報の共有ができた。④体育祭では3年生の修学旅行など日程が激しい中で準備を進め概ね円滑に実施することができた。商工祭では今年度新たに多目的広場を模範店会場とするなど会場配置の見直しを行った。当日は荒天のため会場・販売形態の変更も行った。来校者（受付通過者数：10/28（土）587名、10/29（日）594名、計1,181名）当初予定されていた日程でのグラウンド改修工事を想定し、球技大会については、体育館・サブグラウンドで実施できるよう立案した。④部活動の加入率は、5月1日現在の延べ数で52.2%（部員数計348名/生徒数666名）であり、昨年度の53.4%よりは若干であるが減少。今年度も途中で退部していく生徒がみられ合同チームなどにより活動の継続を図った部もみられた。自転車競技同好会が新設された。	①②基本的な生活習慣や規律マナーが定着するよう全校集会において授業規範について話をした。手応えはあったものの十分とは言えないので今後も根気強く指導を続けて行く。①朝の朝服指導により登下校時の服装も改善されたが、自転車通学の生徒達の服装については課題が残った。次年度に向けて服装規定などを改善すべく改正を行った。また髪型指導・遅刻指導も根気強い指導を積み重ねたがまだ改善が必要である。③カウンセラーの来校日が限定されているので希望者が多く出た場合の調整が今後の課題である。校内だけでなく外部機関との連絡調整も行って行く。③ケース会議や生徒情報交換会の情報を共有するだけでなく生徒ごとのような統一した支援体制をとるのが今後の課題である。④来年度も、体育祭・商工祭・球技大会ともにグラウンド改修工事などに臨機応変に対応し充実したものを目指す。④入部率の回復を図りながら途中退部せず部活動に意義を見出せる生徒が増えるよう、全職員の協力を得て部活動の活性化を図る。来年度から導入される55分授業で朝日に伴う放課後の時間が短くなるが顧問が道徳部員を指導する時間を確保できる体制づくりを模索し内容の充実を図りたい。	（保護者） ①服装・髪型・自転車指導、携帯電話教室の実施によりマナーを守る等の規範意識を持って生活するという態度が育成された77%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。③スクールカウンセラーの活用など生徒への支援体制の確立等の取組により生徒が安心して学校生活を送ることができた68%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。④生徒主体の学校行事を実施することで積極的に学校行事に参加する生徒が増えた。各部活の活動を広報することで部活動参加率が上がり活性化した部活動が増えたこと、58%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。 （学校評議員） ①生徒指導も良くやっている。卒業式での校歌を多くの生徒が口ずさんでいて、先生方がしっかりと関わってきた証であると感じた。④行事に多く参加させてもらったが、すべて丹念に取り組んでいるという印象である。	①基本的な生活習慣やマナーが定着するよう全校集会を実施し周知徹底を訴えた。多少の手応えはあったが、十分とは言えないので、工夫を検討し、②校内外の巡回指導等しているが、地域の方々からのマナー違反の苦情が後を絶たない。対策を検討する。③カウセリングを受ける生徒が多くなるよう工夫を検討する。③ケース会議や生徒情報交換会では定着し情報の共有はできた。授業担当者以外との共有化が課題。④若干部活動加入率も上昇、さらに上昇させる手立てを検討。④3年生を中心に、行事に積極的に取り組む生徒が増えた。	①②根気強く組織的な指導を継続。社会人基礎力育成にはコミュニケーション力が必須であるため、更に向向上させるべく授業や授業外で取り組みを強化する。②遅刻指導を継続。自転車のルール違反は自転車指導団等で周知徹底。③生徒情報交換会により全教員に情報の共有化を図る。③家庭と学校が協力し合うために面談を活用。④定着しつつある生徒主体の学校行事をさらに発展させる。

視点	目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月20日実施)	成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	①実践的・体験的学習の機会拡大と充実を図る。②勤労観や公共心、社会奉仕の精神を涵養する。③進路相談体制の充実を図る。	①②商業と工業の連携を強化し、キャリア教育の推進と生徒の主体的な活動への支援を通して基礎的・汎用的能力と自分の進路を自分で描き、実現しようとする力を育成する。③進路閲覧室の充実と支援の促進を図る。	①キャリア教育実践プログラムのもとで、商業と工業の連携による学科を超えた教育内容を充実させ、各学年の状況に応じた進路ガイダンス、説明会、外部講師や卒業生による進路講演会等を実施する。②インターンシップや体験的な活動を通して勤労観や公共心を養い、自分の進路を自分で描き実現しようとする力を育成する。③進路指導(進路相談)のため必要な資料をそろえ、生徒の意識啓発につながるよう見やすく配置し、生徒が主体的に活用できる環境を作る。④進路実現のための基礎学力定着をさせるためにガイダンスグループと学年との協力体制を確立させ、生徒情報の共有を図り、LHRや総合的な学習の時間を有効活用しながら就職・進学についてきめ細かな指導を行う。	①学科の枠を超えた各学年の状況にあった進路ガイダンスを実施し、キャリア教育の推進に繋がったか。②校外における活動に参加する生徒が増加したか。③生徒が主体的に活用するための整備ができたか。④LHRや総合的な学習の時間を有効活用できたか。	①学科の枠を超え、各学年の状況に応じた進路ガイダンス、説明会、外部講師・卒業生による進路講演会を実施し進路実現に向けた前向きな姿勢をつくることのできた。②インターンシップ・仕事のまなび場へ積極的に参加することで、勤労観や公共心を養い、自らの進路をイメージし実現しようとする姿勢を育成した。③進路指導に必要なオリジナルテキストの作成、進学・就職に係る資料を迅速に整理し、常に生徒の進路実現に向けた環境整備に心掛けた。就職においては、1000社を超える求人票を4日程度で整理し、進路閲覧室書棚へ昇順公開することができた。進学においては、募集要項シンプレット、指定校推薦に係る規定・資料についても見やすくまとめた。④ガイダンスグループ・学年との協力体制のもと、基礎学力を定着させるための「学びなおし」学習、「基礎力診断テスト」に取り組むことで進路実現のための「学び」への前向きな姿勢を養うことができた。⑤総合的な学習の時間において、「ビジネスの基礎」「初歩のものづくり」の単元を教えあうことで互いの理解を深め、「商業と工業」の学科の枠を超えた授業を実践した。	①年間の教育計画の中に体系的にガイダンス・説明会を入れ、生徒自らが進路実現に向けて行動できる姿勢を継続していく必要がある。②インターンシップ・仕事のまなび場は今年度、参加率がかなり低下してしまっただけで、参加することの意義と重要さについて理解を深めさせ、報告会・説明会の充実を図り、参加率が見込まれるよう取り組む。③ガイダンス・学年との協力体制のもと、実施した「基礎力診断テスト」、総合的な学習の時間に取り組んだ「学びなおし」、「商業と工業」の学科の枠を超えた相互学習では、効果が現れ始めてきている。継続して実施し効果が現れるよう取り組みたい。	(保護者) ①商業と工業の連携による学科の枠を超えた教育内容を充実させ、各学年の状況に応じた進路ガイダンス、説明会、外部講師や卒業生による進路講演会などを実施したと72%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。②インターンシップ、清掃等の環境美化活動への参加することにより、勤労観や公共心、勤労奉仕の精神を育むことができたことと61%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。③進路閲覧室の充実と支援の促進を図りLHRや総合的な学習の時間に有効活用しながら就職・進学についてきめ細かな指導を行うことができたこと、63%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。	①外部講師や卒業生による進路講演会等は生徒の関心が高く生徒や保護者から好評を得ている。②③インターンシップは希望制だったので、参加生徒の増加には至らなかった。報告会・説明会の充実を図り、生徒がインターンシップ・仕事のまなび場への参加の意義と重要さについて理解を深め参加者の増加を図ることが課題。④求人数の就職と例年と同じ多くの指定校・AO入試等の進学、それら大量の資料を整備し生徒が進路指導室を活用しやすくなり環境を整えた。	①1学年では「ものづくりとビジネス」で学科の枠を超え、学年の状況に合った進路ガイダンスを実施しているが、今後キャリア教育の成果の検証を図る。②インターンシップはかなり参加率が低下したので、より多くの生徒が参加できるよう工夫する。③進学資料が分野ごとに検索できるように資料の充実を図る。進路資料室を生徒が主体的に活用するための改善点はないか検証する。
4	地域等との協働	①学校運営協議会制度を導入し、地域との協働を図る。②広報活動を充実させ情報の発信を推進する。	①学校運営協議会設立の準備を進める。②広報活動に今まで以上に力を入れるとともに、ホームページやポスター等の情報発信の内容を充実させる。③年間計画の全体像を把握しつつ、広く地域交流を図る。④部活動をはじめとする生徒の様々な活動を校外に発信する。	①設立に向けた準備を始める。②生徒主体の学校説明会を発展させるために、計画的に動く体制を整える。③ホームページでの速やかな情報発信に努める。④地域交流の行事などへの参加を、学校全体で呼びかけ、協力をおこなう。本校の状況を地域の方々に理解していただき、地域交流を立案する。⑤他のグループと連携し広報委員会の活動を深化させることにより、情報発信を速やかに進める。	①設立の目的が明確になったか。②専門高校の魅力や特色を伝える広報活動ができたか。③生徒の企画・運営による学校説明会等の広報活動ができたか。④ホームページ等の情報発信が効果的、かつ速やかに進められたか。⑤充実した地域交流が行えたか。⑥広報委員会の情報発信が速やかに進められたか。	①本校の学校運営協議会が円滑に開始されるように、連携を取りながら引き続き準備を進めていく。②地域交流の行事は定着してきているが、生徒会役員や一部の部活動の力に頼っていることは否めない。地域交流への参加方法・参加回数についてはさらに調整を図り、できるだけ多くの生徒が参加できるよう協力を仰いでいく。③今後は部活動の情報発信するなど、広報委員会の活動をさらに活性化に向けて方策を検討していく。	(保護者) ①生徒の企画・運営による中学生対象学校説明会の実施が効果的かつ速やかなホームページ等の情報発信を通して広報活動を充実させることができたことと60%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。②近隣自治会の夏祭り、もちつき大会等地域の行事への教員・生徒の積極的な参加や地域清掃活動の実施により、地域との交流や協働を図ることができたこと、44%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。この内容については32%の保護者が分からないと回答、評価していただくための材料が十分に保護者に伝えられていないことがわかる。	①学校運営協議会設立の説明を行い準備を進めた。具体的な計画を立案し円滑な運営を行うことが課題。②生徒主体の学校説明会は入学した生徒やその保護者から好評だが専門学科への理解が不十分であることも実感したので学習塾や中学校の先生方対象の説明会等で引き続き広報し専門学科に対する理解が得られるよう方策を検討。③ホームページの刷新・吹奏楽部の音楽フェスティバル出場等の地域行事に関わることで生徒の活動を校外に発信した。	①学校運営協議会の運営は、近隣の高校や同じ専門学科の高校との情報交換をしながら進める。②来年度も学習塾や中学校の先生対象の説明会を実施して参加者を増やし専門学科への理解を図る。③ホームページをさらに充実させタイムリーな情報提供を図る。④広報委員会の活動をより発信させる。	
5	学校管理 学校運営	①安全安心な学習環境を維持構築する。②ミッションに沿った学校経営の推進を追求する。③教育公務員としての規範意識を醸成する。	①グラウンド改修の情報を全職員で共有し、安全に行うようにする。また、改修後の学習環境を速やかに整える。②PDCAサイクルを実践する。③人権等の職員研修を充実させる。	①グラウンド改修の計画を周知徹底させる。②中間時に1度確認し、後半に活かす。年度末に1年間を振り返る。③職員の規範等の意識向上のために、人権・体罰等の研修を全員参加で行う。	①情報が共有され、グラウンド改修が安全に行われたか。①改修後の問題点に速やかに対応できたか。②PDCAサイクルを実践できたか。③職員研修により、職員の規範意識の向上を図れたか。	①体育館・部室棟の修理工事やサブグラウンド植栽等事前で工事等予定表で職員に周知徹底が図られ安全に終了。①グラウンド改修工事に向け、物品移動等準備を整えた。①アンケートで「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」をあわせて93%の教員が漸次移転後の問題に速やかに対応し授業に支障がないように学習環境を整えたことと回答。②アンケートでは「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」をあわせて92%の教員がPDCAサイクルを実践しミッションに沿った学校経営の推進を追求することができたことと回答。③アンケートで「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」をあわせて100%の教員が、日常点検の実施により危機管理意識を高めると共にAED操作の研修や外部講師による人権研修会や事故防止研修等を実施し教育公務員としての規範意識を高めたことと回答。人権研修会を8月に実施し教職員が識字障害を体験により認識し人権感覚の向上を図った。	①グラウンド改修工事は、今後の予定を確認し、学校行事や部活動等の事前の対応策を考える。③人権研修や手話研修、AED操作研修などは、規範意識の向上や、理解や意識を深めていくため、毎年実施していく。	(保護者) ①新校舎移転後の問題点に速やかに対応し、授業に支障がないように学習環境を整えたこと、78%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。③日常点検の実施により危機管理意識を高めると共に、AEDの操作研修や外部講師による人権研修等の継続実施を実施し、教育公務員としての規範意識を高めたこと、68%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。	①新校舎移転後の問題点に速やかに対応し、授業に支障がないように学習環境を整えたこと、78%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。③日常点検の実施により危機管理意識を高めると共に、AEDの操作研修や外部講師による人権研修等の継続実施を実施し、教育公務員としての規範意識を高めたこと、68%の保護者が十分もしくはほぼ十分であると回答。③事故防止研修を実施し規範意識の向上はみられたがさらに各自の規範意識を高めるため研修を重ねる。	①新校舎の施設設備等に不具合があらば迅速に対応。①グラウンド改修工事の予定を確認し、徹底。②PDCAサイクルの実践を丁寧に実施。③少しでも気になる事項はそのままにせず改善策を考え実行しお互いの行動を気遣い声を掛け合う等、今後不祥事ゼロをめざしていく。